

「構内事故」の半分以上は、「バック」事故

事故の件数からも、トラックのバック動作は 危険(リスク)が高い動作といえます

- できる限りバックはしない
- 夜間や障害物がある箇所では 【一旦降りて自分の目で確認する】

日が短くなりました

夕暮れの、自転車・歩行者、交差点に十分注意しましょう

薄暮時、夜間事故の防止

点灯せ 生死を分ける ハイビーム

- 早目のライト点灯で自車を目立たせましょう
- 夜間走行時はハイビームが基本(ライトをこまめに切り替え、危険を早期に発見)
- 歩行者に注意しましょう(右側から横断してくる歩行者は発見が遅れるので注意)

高齢者の乱横断(横断歩道のないところを渡る)

優先道路でも、危険予測・防衛運転を…しましょう

横断する歩行者を見逃さない

～ 周囲をよく見て横断歩行者を予測した慎重な運転を！ ～

- 横断歩道の付近や周囲、交差点の切れ目から、横断する歩行者を見逃さない！
- 特に、自分から見て「右から左」に横断する高齢歩行者に要注意！

【事業用トラックの重点項目】

- ① 追突事故の防止
- ② 交差点事故の防止
- ③ 飲酒運転の根絶

◆ 労災事故防止 トラックの荷台から…「墜落・転落」、「挟まれ」防止◆

敷き鉄板の積み下ろし作業時 ユニック作業に注意しましょう

大型トラックに側方衝突警報装置の装備義務付け 国交省

大型トラックが左折時、
自転車と衝突するおそれがある場合に
運転者に警報する

2019/10/16(水) 10:33

国土交通省は、大型トラックが左折時、自転車と衝突するおそれがある場合に運転者に警報する「側方衝突警報装置」の国際基準を導入して装備を義務付けると発表した。

国土交通省自動車局では、自動車の安全基準について、国際的な整合を図りながら順次、拡充・強化を進めている。今回「側方衝突警報装置に係る協定規則(第151号)」などが国連欧州経済委員会自動車基準調和世界フォーラム(WP29)で採択されたことを踏まえ、日本も基準を導入する。

車両総重量8トンを超える貨物自動車に、協定規則第151号に規定された技術的要件への適合を義務付ける。適用時期は、新型車が2022年5月からで、継続生産車が2024年5月からとする。

自転車で横断していたの男性 はねられ死亡

◇ デイ・ライトで知らせよう…自分の車の存在 事故防止◇

◇ わき見は厳禁、100%運転に集中しましょう◇

2019/10/16(水) 11:51

15日午前11時すぎ、長崎県の国道で、自転車と軽乗用車が衝突した事故で、自転車に乗って道路を横断していた男性(67)が死亡しました。

横断歩道を渡っていた男性が、車2台にはねられ死亡

最初にはねた男を現行犯逮捕

◇ 車が動いているときは、いかなる場合も 常に、100%運転に集中しましょう◇

2019/10/16(水) 11:50

16日朝、岡山県の国道の横断歩道を渡っていた男性(80)が車2台にはねられ死亡しました。警察は、最初にはねた男性容疑者(43)を現行犯逮捕し調べています。

夜7時 交通整理の男性、はねられ重傷

軽乗用車が警備員らはねる 4人けが

2019/10/14(月) 14:31

13日午後7時ごろ、奈良県の国道交差点で、軽乗用車に男性2人がはねられた。男性警備員(79)が頭の骨を折る重傷、自転車の男性(28)が軽傷を負った。軽乗用車はその後、溝に脱輪して停止。近くにいた親子2人が驚いて転倒しけがをした。警察は過失傷害の疑いで、軽乗用車を運転していた女性(63)を逮捕した。同署の調べに対し、女性は「警備員ははねたが、ほか3人は分からない」と供述している。男性警備員は、近くで開催していた自治会の秋祭りの交通整理をしていたという。